

地域の医療連携の中核を担う

りんくう総合医療センター

問合先 地域医療連携室 (☎469-3111 Fax469-7929)

消化器内科

主任部長 大西 亨



当院は日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会の指導施設に認定されています。

消化器内科が扱う疾

患は腹部が中心で、食道・胃・小腸・大腸などの消化管と、肝臓・脾臓・胆のうなどの実臓器までと多岐にわたっています。地域の中核病院として救急から慢性期までの幅広い疾患を扱うだけではなく、早期胃癌の内視鏡的切除、大腸ポリープの内視鏡治療、胆石胆管炎の内視鏡治療（乳頭切開術・碎石術）およびB型・C型慢性肝炎の経口薬治療に積極的に取り組んでいます。

現在、常勤医は2人で、両名とも日本消化器病学会指導医であり1人は日本消化器内視鏡学会指導医、1人は日本肝臓学会専門医となっております。非常勤医師の助けを借りながら外来診察および上部内視鏡、下部内視鏡ともに平日はすべて受けていただけるようになっています。必要があれば予約外でも緊急で内視鏡検査が可能です。

内視鏡検査というと苦しいイメージがあるかと思いますが、胃カメラでは経鼻内視鏡（鼻からの内視鏡）や鎮静化（眠っているうちに検査をする）ことも可能です。また、大腸カメラでは炭酸ガス送気（検査によるおなかの張りが楽）にて検査を行っております。

何事も「早期発見・早期治療」が大切です。各種がん検診や肝炎検診を進んで受け、異常があれば、かかりつけ医より当院に紹介していただきますようよろしく願っています。

放射線技術科

技術科長 小西康彦



心臓の血管がつまる「心筋梗塞」、脳の血管がつまる「脳梗塞」、脳の動脈瘤が破れる「くも膜下出血」。これらの病気はいつ起こるか分からないだけでなく、すみやかに治療を開始しないと重い後遺症が残ったり、死に至る大変危険な病気です。治療方法には手術やカテーテル治療があり、放射線部門はカテーテル治療に対応しています。

すでに今年1月からの半年間で心臓118人、脳血管52人のカテーテル検査・治療を実施しており、放射線技術科では、すみやかにカテーテル検査・治療が開始できるようスタッフの教育・研修に力を注いでいます。

「心筋梗塞」が疑われるが明らかな症状がない場合、心臓CTで確認することもあります。そのため心臓CTの撮影も24時間体制で実施できるようにしています。

「脳梗塞」の場合、CT検査で出血がなくMRI検査で梗塞が疑われるとカテーテル治療の対象となります。そのため、当院ではMRI検査が24時間実施できる体制としています。

くも膜下出血は、原因となる脳動脈瘤を発見し予防的治療を行う事で防ぐことができます。といわれています。脳動脈瘤を探すには、脳の血管を任意の断面で観察できる脳MRA検査が有用で、当院ではより詳細な部分まで観察できる高磁場MRI装置（3T）を用いて検査を行っています。当院の人間ドックでは「脳ドック」に脳MRAが組み込まれており、昨年度は5人に1人の方が「脳ドック」を選択されています。

今回は、より迅速な治療開始が必要な病気に対する放射線技術科の体制の一部を紹介させていただきました。今後ともより安全な治療体制を目指して努力していきたいと思っております。